

## 東日本大震災： 世界から届いた メッセージ

米国



国際交流基金が過去に支援をしたフェローや、招へいた研究者など、さまざまな方が応援メッセージを届けてくれました。米国の子どもたちが描いてくれた「元気メッセージ」は、来日したジャーナリストたちを通じて被災地の小学校へ届けられました。撮影：相川健一

スペイン



スペイン東部のカタルーニャ州バルセロナで毎年開催される Mon Libre (モン・リブラ：本の世界) は児童文学のフェスティバル。2010年4月23日に開催されたこの年のお祭りは、直前に起きた震災をうけて、「日本復興祈念のイベント」と位置づけられました。このイベントで、国際交流基金は世界で活躍する日本の絵本作家、五味太郎氏のワークショップを共催しました。床に敷き詰められた25メートルもの長さの紙に子供たちが、たくさんの色で、筆や手の平をつかって自由に絵を描き、日本への想いを書いてくれました。写真提供：ブロンズ社、Coco books

中国



中国の若者に日本の文化に親しんでもらう目的で中国各地に開設されている「ふれあいの場」。四川省の「成都ふれあいの場」に集まった23人の学生たちは2008年に四川での大震災を経験した若者です。“頑張れ”の気持ちこもった寄せ書きとビデオメッセージが届けられました。ビデオメッセージは以下のURLでご覧になれます。  
<http://www.chinacenter.jp/japanese/shinsai/shinsai.php>

ウズベキスタン



国際交流基金の事業で来日し、日本への強い想いを抱いていた専門家のなかには、震災後すぐに被災地へ向かい、ボランティアグループを組織、週末ごとに炊き出しを行ったり、瓦礫の撤去に加わった人もいました。タシュケント国立東洋学大学政治学研究所のトゥイチェフ・ムヒディン氏(右)は日本在住のイスラム社会の人たちとともに、震災直後から被災地入りしました。

オーストラリア



世界各地で、たくさんの方が日本のために、アクションを起こしてくれました。オーストラリアのシドニー日本文化センターのスタッフは「Australia Supports Japan」を掲げ、ボランティアで週末のチャリティ・イベントを行い、ウェブサイト上に支援情報の交換の場をつくりました。そこには、多くのオーストラリアの市民から支援が寄せられました。

2011年3月11日、東日本で起きた未曾有の災害。その惨状はテレビ、新聞、インターネットにのって瞬く間に世界へと伝えられました。国際交流基金の海外拠点や、東京の本部には、東日本大震災が起きて以来、多くの国から哀悼と激励のメッセージが届けられ、また、さまざまな支援の手が差し伸べられました。この機会を通じて、私たち国際交流基金も、あらためて、私たちが地球市民であること、パートナーシップにより世界と連帯することの重要性を認識することになりました。

そして、海外の一般の方だけでなく、これまで国際交流基金のさまざまな事業を通じて、密な関係を築いてきた専

門家や、団体の皆さんからも、温かいメッセージが寄せられ、チャリティイベントや募金、メディアでの意見表明など、たくさんのアクションの情報も届いています。そのアクションの輪は世界の全地域に広がっており、日本の多くの人びとが勇気づけられました。

これらの出来事からも、日本と海外の国ぐにとの連携の重要性がますます高まっているを感じます。国際交流基金はこれまでに培ってきた国際的な人的ネットワークや災害復興・防災等に関する事業の実績とノウハウを活かし、積極的に事業を実施し、文化交流を通じた国際間の連携強化と、震災復興に引き続き貢献していきます。

## ドイツ



ベルリン日独センターでは「東日本大地震と新旧メディアの役割～日独における地震報道に関する比較の視座」と題したシンポジウムが行われました。震災でテレビや電話、そして携帯電話やインターネットなどの新旧メディアが果たした役割と、日独での報道の差から、情報の送り手と受け手のなかにある課題が議論されました。

## ベトナム



ベトナム国家大学ハノイ人文科学大学の教職員と学生500名が、震災の犠牲者を悼み、復興を応援する会を開きました。黙祷、学生が編集した震災VTR上映、日本学科の学生の日本の地理や文化、千羽鶴の由来の紹介があり、主催者と参加者全員が折ってくれた折り鶴一万羽が同校と交流のある福島大学に贈られました。

## エジプト



カイロ日本文化センターのスタッフは、カイロのタハリール広場で、日本語を学ぶ人々からのメッセージをビデオで撮影。多くの方に見ていただけるよう映像をYoutubeに投稿しました。日本語を学ぶ人の日本語によるメッセージに加え、撮影中、道行く人たちが次々と飛び入りで参加し、励ましの言葉を伝えてくれました。

## 米国



米国ミズーリ州ウェブスター大学では、日本人学生会が「Hope For Japan」という支援イベントを立ち上げました。義援金を集めるためのフリーマーケットや和太鼓公演などのチャリティ・イベントのほか、震災について考えるシンポジウムなど、多角的なイベントが行われました。

## トルコ



トルコの首都アンカラにある土日基金文化センター内の日本語講座受講生が、学んだばかりの日本語を使って、寄せ書きを送ってくれました。

## 国際交流基金の東日本大震災に関連した事業への取り組みの方針

### 1. 日本社会や日本人についての理解を深める事業

震災後に高まった日本に対する国際的な関心・連帯意識をより深い日本理解へつなげていきます。

また、日本への関心が、ステレオタイプの日本特殊論や日本人論に走ることを避けるため、日本の文化を多様な側面から紹介します。

### 2. 震災後の日本社会の復興、再生、活力回復に資する事業

被災地域の文化（芸術、芸能、人びとの考え方、行動等）を海外に紹介するなど、被災地で行われる国際文化交流事業を支援し、被災地をはじめとする日本の地域社会が国際社会との繋がりのなかで復興への活力や希望を取り戻す機会を提供します。

### 3. 日本の被災経験・教訓を国際社会に活かす事業

震災や復興に至る道筋についての研究や知的な対話、そして震災と復興の体験を世界の人びとと共有することより、防災教育や防災文化の普及を世界に促し、国際社会に貢献します。

### 4. 海外拠点による各国での日本支援・犠牲者追悼イベントへの協力

海外で開催されるチャリティイベントや日本支援への取り組みに、各地域にあるネットワークを活かし、ノウハウや場の提供等で協力します。